

May you have a wonderful Christmas and a Peaceful New Year!

＋ 主の平和！

御子のご降誕をお祝いいたします。

今年も親しい人々がこの世での生活を終えて、旅立って行きました。
自分の仕事は何なのか、改めて考えさせられています。

昨年の10月末から始めた映画会は、どんな映画を上映すべきか、
いろいろ考えていると、その視点から世の中を観ることができて、
自分の毎週の礼拝での説教にも参考になっています。

今度の年賀状は、そんな経験から出てきたものです。

【映画会を続けています】

カズオ・イシグロの三作品から始めた映画会は、毎月第2と第4金曜日、
午後2時と午後7時から上映。1年間に、黒澤明の「生きる」「素晴らしき日曜日」「虎の尾を踏む男達」「酔いどれ天使」
の四作品を観ていました。12月に入って電気屋さんで年賀状用インクを買いに行ったら、『姿三四郎』(1943)『続・
姿三四郎』(1945)を見つけて、一緒に購入。これは黒澤明監督の最初の作品と彼の唯一の続編の映画でした。そして、
スーパーマン同様、二作目に、より強いメッセージを感じました。

【姿三四郎に驚く】

スーパーマンIIでは、彼と同じクリプトン星から3人の悪者が地球に降り立つ時、湖の上を歩いたり、噛みついた毒蛇を焼き殺す場面など、聖書を題材にして、それを皮肉った面白さを知りました。今回の、続・姿三四郎では、道場の掟を破っても、宿敵との対決を選ぶ三四郎の苦悩や、対決した相手が負けると、相手の傷を介抱したり食事を作ってやる、誠実な三四郎の性格が描かれていたのです。これらにも聖書の教えを感じました。

【映画作家大林宣彦さんの黒澤さんについての思い出】

黒澤さんは「夢」という映画に盛り込めなかった「素晴らしい夢(平和がくる)」について、話していたそうです。

『ある日、世界中の男が手に持っている銃を捨ててしまう。すると両手が空になる。しょうがないので、目の前にいる敵と抱き合う。すると、なんだかこのほうがいいなと感じるようになって、世界中から戦争がなくなる・・・。』

これが発表された時「こんな小学生が書いたような夢を、“世界のクロサワ”と呼ばれる人がやったら、いくらなんでも恥だ」というのが世の識者と言われる人たちの意見でした。結局、この話は諸事情で実現しませんでした。この話にこそ、黒澤さんの真の想いが込められていたんです。黒澤さんは、映画というのは平和を作ることができる唯一のメディアだと信じていらっやした。戦争がなければ、映画なんていらなかった。戦争があるからこそそれを記憶して、平和を作るということのために、映画は歴史的に発明されてきた。(DVDコレクションより)

流行語になった「**ボーっと生きてんじゃねーよ!**」(Don't sleep through life!)とチョコちゃんから叱られないように、真剣に聖書の説教にも映画会の内容準備にも取り組みたいと思っています。

来年が、いい年になりますように。

救主降生2018年12月13日 小林史明

〒880-0032 宮崎市霧島4-155 宮崎聖三一教会内

電話 0985-24-1423

携帯 090-1367-6818

E-Mail: ffrank@kind.ocn.ne.jp

宮崎聖三一教会のホームページに、説教も載せています。

Homepage: <http://www.ffrank.sakura.ne.jp>

